

令和7年度インクルーシブな学校運営モデル事業

熊本県 中間成果報告

令和8年2月20日（金）

【団体名】熊本県教育委員会

特別支援学校 高等部

- ・ 知的障がい特別支援学校高等部では、知的障がいの程度が比較的軽度な生徒が増加している。
- ・ 生徒の幅広い学びのニーズに応えるため、各教科の指導の精度を高めるなど一層の指導上の工夫が必要となっている。

高等学校

- ・ 中学校の特別支援学級を卒業した生徒の約6割が高等学校に進学している。
- ・ 特別な教育的ニーズのある生徒が多く在籍し、通級による指導を設ける学校以外でも、特別支援教育支援員の配置や特性等に応じた個別支援への要望が高い。

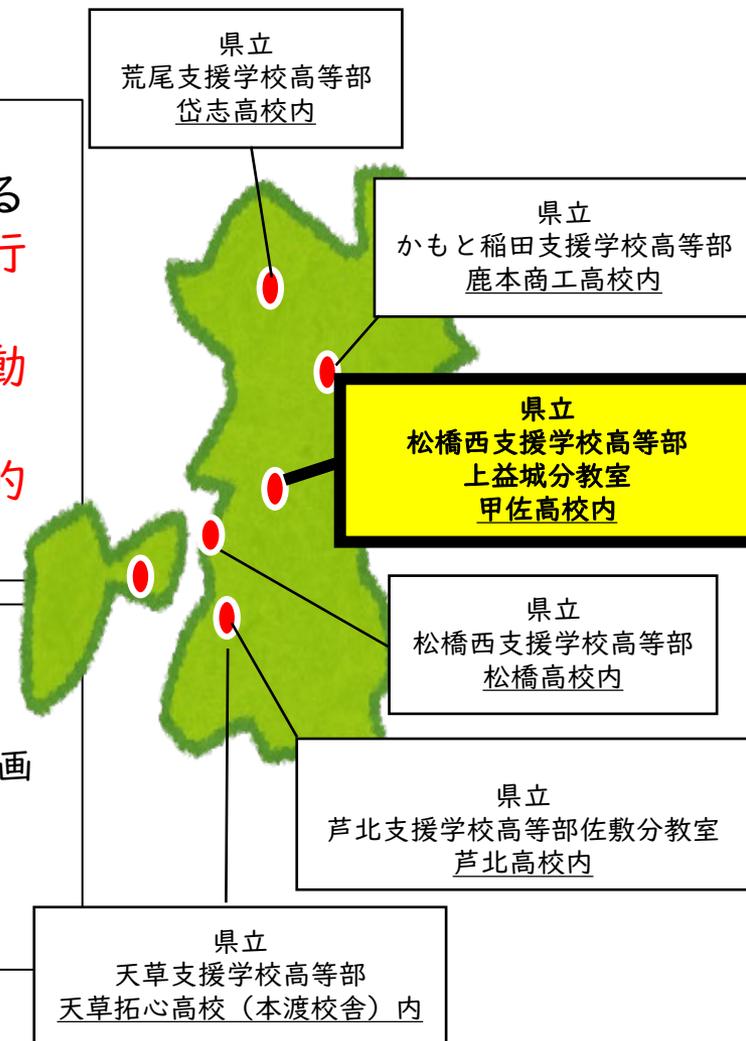
<本県がこれまでに取り組んだこと>

(1) 交流及び共同学習

- ◎ 特別支援学校と近隣の小中高校が**交流**している
 - ・小学部が地域の小学校に出かけて、小学校の**行事に参加**する
 - ・中学部が地域の中学校と販売会等で**一緒に活動**する
 - ・高等部が地域の高校の**課題研究や実習に体験的に参加**する 等

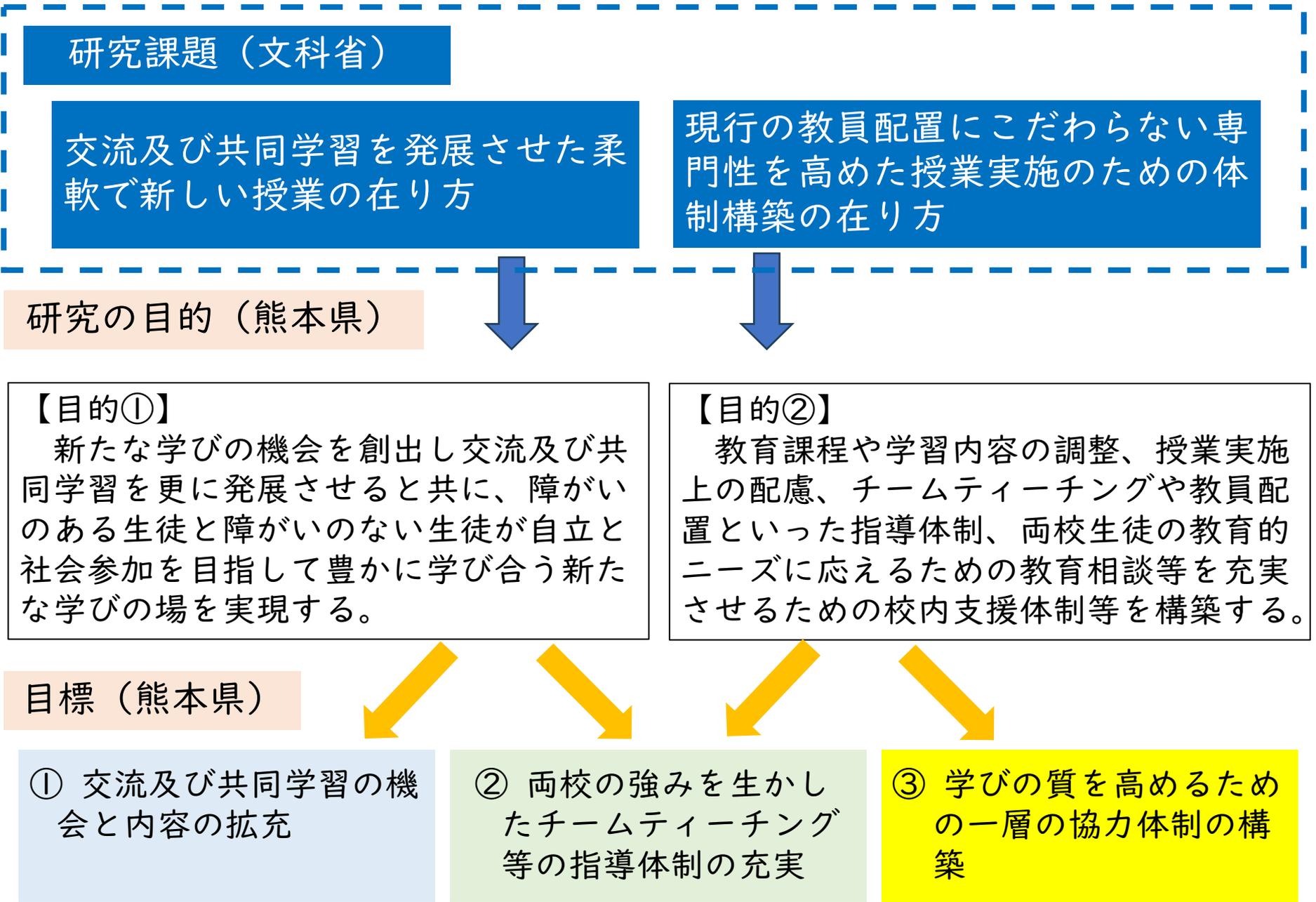
(2) 特別支援学校高等部を高校の敷地内に開設

- ◎ 高等部分教室を開設した（県立特別支援学校整備計画）
- ◎ 高等部を高校内に移設した（県立特別支援学校整備計画【改定版】）
 - ・体育大会、文化祭などの**学校行事に参加**
 - ・入学や卒業に際しての**メッセージ交換** 等



【本県の課題】

交流の側面を意識した取組が中心だった



研究課題 (文科省)

交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

研究の目的 (熊本県)

【目的①】
新たな学びの機会を創出し交流及び共同学習を更に発展させると共に、障がいのある生徒と障がいのない生徒が自立と社会参加を目指して豊かに学び合う新たな学びの場を実現する。

【目的②】
教育課程や学習内容の調整、授業実施上の配慮、チームティーチングや教員配置といった指導体制、両校生徒の教育的ニーズに応えるための教育相談等を充実させるための校内支援体制等を構築する。

目標 (熊本県)

① 交流及び共同学習の機会と内容の拡充

② 両校の強みを生かしたチームティーチング等の指導体制の充実

③ 学びの質を高めるための一層の協力体制の構築

インクルーシブな学校運営研究事業（熊本県の事業名称）

甲佐高等学校と松橋西支援学校高等部上益城分教室の両校生徒の交流及び共同学習を発展的に進め、柔軟な教育課程の設定や指導体制のあり方等の検討をとおして、障がいのある生徒と障がいのない生徒が共に学ぶ新たな学びの場の実現を目指した実証的な研究を行う。

【取組テーマ】

魅力ある学びを両校から提供し合い
「共に学ぶ」を一層深める 新たな学校づくり

<p>① 交流及び共同学習の機会と内容の拡充</p>	<p>② 両校の強みを生かしたチームティーチング等の指導体制の充実</p>	<p>③ 学びの質を高めるための一層の協力体制の構築</p>
<ul style="list-style-type: none"> 各教科の目標や内容を意識し、<u>共同学習が実施可能な教科を検討</u>する。 教材教具やICT機器を活用し、一人一人の学びの充実に必要な<u>合理的配慮を両校で展開</u>していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を互いに継続的に受けられることができるよう、<u>両校の教育課程や年間指導計画を作り上げる。</u> 指導体制やサポートについて考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>ユニット会議</u>等を行いながら、生徒一人一人を大切にしたい取組を進める。 障がいの有無や特別な支援の要否に関わらず、共に学べる環境づくりを進める。



取組の経過と成果は県内の高校敷地内に高等部を設置している特別支援学校と当該高校の全校で共有する。

	特別支援学校	高等学校
学校名	 <p> 県立 松橋西支援学校 (高等部上益城分教室) </p>	 <p> 県立 甲佐高等学校 </p>
学校規模	生徒数：小学部 72名 中学部 64名 高等部 72名 (分教室 17名)	生徒数：99名
[障がい種]	[知的障がい]	
備考	平成23年に、これまで特別支援学校が無かった上益城地区にある熊本県立甲佐高等学校内に、高等部上益城分教室を設置した。	令和3年に創立100周年を迎えた。普通科、普通科福祉教養コース、ビジネス情報科を設置している。

平成23年度から、体育大会等の学校行事への参加に加え、日頃から交流を深めている。



本県では、2名配置している

	カリキュラム・マネージャー Ⅰ	カリキュラム・マネージャー Ⅱ
主な経歴	高等学校長 特別支援学校長 熊本県教育委員会指導主事	特別支援学校長 熊本県教育委員会指導主事
本事業に おける 役割	連携協議会、実務担当者会、ユニット会議の企画、 両校の専門性向上と連携強化のための企画	
	「授業開発ユニット」を 編制し、交流及び共同学 習の機会拡充と内容の充 実を図る。。	「支援検討ユニット」を 編制し、共に学べる環境 に必要な合理的配慮を検 討する。

開催回数・構成

- ・回数：年3回
- ・構成人数：14名（外部専門家として大学教授1名）

主な役割

- ・事業内容の共有、進捗確認と取組効果の検証
- ・学校組織体制構築に向けた情報の共有と学校行事等の検討

検討・議論してきている内容

第1回 (7月)	事業の概要及び今後の方向性の共有
第2回 (10月)	現在の取組の進捗確認及びアンケート結果の共有と今後の方向性の検討
第3回 (2月予定)	今年度の取組の確認及び次年度の方向性の検討

本県の目標と【今年度の取組】の関係性を示しています

目標	① 交流及び共同学習の機会と内容の拡充	② 両校の強みを生かしたチームティーチング等の指導体制の充実	③ 学びの質を高めるための一層の協力体制の構築
<p>【取組名】</p> <p>○内容</p>	<p>【共同学習1「音楽」】</p> <p>○「音楽」の授業検討と評価の共有を基にした授業改善</p> <p>【共同学習2「国語」】</p> <p>○「国語」の授業検討と成果の共有</p> <div data-bbox="475 1048 1174 1119" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>公開授業「音楽」の実施</p> </div>	<p>【体制構築1「アンケート調査」】</p> <p>○取組開始時に実施し、結果を共有した</p> <p>【体制構築2「合同職員研修」】</p> <p>○合同職員研修の実施</p> <p>【体制構築3「授業参観」】</p> <p>○互いの授業を参観できるようにした</p> <p>【体制構築4「ユニット会議」】</p> <p>○教育課程や合理的配慮の検討</p>	

共同学習 1 「音楽」

内容及び取組等

- ・ 11月に行われる甲佐高校の文化祭「青垣祭」でのステージ発表を共通のゴールに設定した。
- ・ 「交流および共同学習」の共通の目標だけでなく、共同学習の側面を充実させるために、両校の教科の目標を設定し、取り組んだ。
- ・ 授業は全13回行い、生徒の実態に応じて題材計画を作成し、分教室のみの学習と共同学習の活動に分けて取り組んだ。
- ・ 当日のステージでは、全員が自信を持って学習の成果を発表した。

共同学習 2 「国語」

内容及び取組等

- ・ 「交流および共同学習」の共通の目標だけでなく、共同学習の側面を充実させるために、両校の教科の目標を設定し、取り組んだ
- ・ 甲佐高校題材3時間のうち1時間を共同学習とした。
- ・ 宛名教材を別途用意し、座席位置の配慮や実物投影機による「見てわかる視覚的な指導」を行った。
- ・ 作成した年賀状は、校内の仮設郵便ポストへ実際に投函した。

体制構築 1 取組開始時のアンケート

意見等

- ・生徒・教師ともに交流による「成長」や「楽しさ」を実感できるのではないかと等の意見がでた。
- ・職員の業務負担や、特別な配慮が必要な生徒への対応力向上といった課題も上げられた。

体制構築 2 合同職員研修

意見等

- ・生徒指導や進路指導における情報共有の有効性が確認された。
- ・「交流スペースの設置」や「地域でのPR活動・清掃活動」等、多くの建設的な意見が出された。

体制構築 3 授業参観

意見等

- ・施設面や教材の活用等を取り入れることで、深い学びにつながるのではという意見が出された。
- ・視覚支援やICT活用、生徒への声かけの工夫等、多くの具体的な指導のノウハウを学ぶ機会となった。

体制構築 4-1 ユニット会議での検討

授業開発 ユニット

【成果】

- 交流及び共同学習の実施に向けて、担当教員を中心に検討していくことができた。
- 学校行事を含め、これまでも行ってきたことは、担当者間での引継ぎもできており、授業の実施は滞りなく行うことができた。

【課題】

- ▲共同学習の場合、目標や学習内容を事前に共有することはできたが、具体的な指導上の工夫や指導者の動きなど、細かな調整には至らなかった。

【今後に向けて】

- 令和7年度中に、両校のシラバスを突合し、交流及び共同学習が可能な授業を確認する。
- 交流及び共同学習に関する打合せの時期やメンバーなどを明らかにし、年間を通して見通しをもって交流及び共同学習に取り組んでいく。

体制構築 4-2 ユニット会議での検討

支援検討 ユニット

【成果】

- 10月から週1回を基本にメンバーで集まり、特に支援が必要な生徒について情報交換を行った。
- 松橋西支援学校の特別支援教育コーディネーターが、甲佐高校の巡回相談を行う際の手続きを簡素化した。
- 合同職員研修会を実施し、連携協議会外部専門家である九州ルーテル学院大学河田教授から講話及び指導助言をいただいた。

【課題】

- ▲支援度の高い生徒について、教科を絞り集中して授業改善に取り組もうとしたが、実際は授業見学は数回しかできず、授業検討会も実施できなかった。

【今後に向けて】

- 職員・生徒のニーズを改めて把握し、必要な支援を検討・実施していく。

○各自治体（団体）における取組

- ・学校運営連携校における取組状況や成果等の横展開

公開授業「音楽」及び情報交換会

対象：県内の高校敷地内に高等部を設置している特別支援学校と当該高校

公開日：10月23日、27日、30日
(3回)

モデル事業の実践を積極的に発信することで、各校への広がりや参考事例としての活用が期待される

・本事業の実施を通じた生徒・教職員の意識等の変容

生徒	<p>○授業後の感想では「一緒に活動して楽しめた。」「継続的に共同学習の機会があってもよい。」等、友達を意識し、もっと一緒に活動したいという意欲的な意見が多くみられるようになった。</p> <p>○「音楽」「国語」の共同学習にとどまらず、行事やレクリエーション等、いろいろな活動ができるのではないかと、前向きな意見がみられるようになった。</p>
教師	<p>○互いの授業参観を通して、合理的な配慮や生徒への支援の仕方等ユニバーサルな授業づくりの意識の向上へとつながってきた。</p> <p>○活動充実に向け今後取り組めること、取り組みたいことなど建設的な意見が多くみられるようになってきた。</p>

研究課題：交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方

【成果】

- 共同学習として「音楽」と「国語」を実施し、両校が教科の目標をもって授業づくりに臨むことができた。
- 交流及び共同学習の充実について、可能性と課題が明らかになった。
- 公開授業を行い、高校敷地内に高等部を設置している特別支援学校と当該学校へ発信したことで、今後の交流および共同学習の取組充実への意識向上につながってきた。

【課題】

- ▲生徒の実態に合わせた共同学習が可能な教科とその内容の把握に時間がかかり、調整が困難であった。
- ▲交流スペースの設置を検討したが、日常的な交流の機会の拡充に至らなかった。

【今後の展望】

- 共同学習「理科」を実施し、年間計画作成及び授業計画・評価を共有する。
- 校内での授業研究会を実施する。
- 交流及び共同学習に係る年間計画や担当者等を明確化し、両校で共有する。

本年度実施した交流及び共同学習を継続・発展させる

研究課題：現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

【成果】

- 職員研修やグループ検討、生徒アンケートから交流及び共同学習について具体的な取組案が多数出てきたので、今後の研究に大いに生かしていくことができた。
- アンケートや授業参観等を実施したことで、より、「生徒の成長」や「インクルーシブ教育の実践」といった教育的価値を教師自身が前向きに捉えることができるようになった。

【課題】

- ▲授業づくりに関する職員のニーズの把握が不足し、必要な専門性の相互提供が十分にできなかった。
- ▲授業を展開する中で職員の役割分担や指導上の留意点等について、より詳細な検討と共有が必要である。その時間を確保するためのシステムが必要である。
- ▲カリキュラムの違いや時間割のずれがあるなかで、共同学習の機会を設けるためには、職員の意識改革と取組を推進する組織化が必要である。
- ▲交流及び共同学習を継続・充実させるためには、実施授業の精選も必要である。

【今後の展望】

- 職員のニーズの把握とその対応を検討し、共有する。
- 合同研修会では、職員のニーズに応じた内容を取り上げ充実させていく。

公開授業研究発表会を実施し、各校の取組にいかしていく